

# 特別支援学校の教育課程等の現状に関する研究 主に知的障害者及び肢体不自由者である児童生徒に 対する教育を行う特別支援学校を中心に

著者	太田 容次, 江川 正一
雑誌名	こども教育研究
号	3
ページ	13-24
発行年	2017-09-01
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1057/00000277/">http://id.nii.ac.jp/1057/00000277/</a>



# 特別支援学校の教育課程等の現状に関する研究

## — 主に知的障害者及び肢体不自由者である児童生徒に対する教育を行う 特別支援学校を中心に —

太田容次（京都ノートルダム女子大学）  
江川正一（京都ノートルダム女子大学）

新学習指導要領の実施に向けた特別支援学校における教育課程の編成状況や学校経営方針の現状について、主に知的障害者及び肢体不自由者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校を対象に悉皆調査した。児童生徒の障害の重度・重複化、多様化の現状をふまえ、学習指導要領等が示す特別支援教育の理念に基づいた今日的な課題としての医療的ケア、訪問教育などの実際と、各教科等や自立活動について、また、障害の特性等に応じたアセスメントや支援技術の活用を含めたコミュニケーション支援、学習面・生活面の困難さを改善・克服するための授業法、授業研究、授業改善について、さらに、自立と社会参加に向けた個別の教育支援計画等の活用や、特別支援学校のセンター的機能、交流及び共同学習などによるインクルーシブ教育システム構築に向けた取り組みについて、学習指導要領改訂で示されたポイントから Web に公開されている教育課程等をテキストマイニングの手法により分類し整理した。

キーワード： 特別支援学校 学習指導要領 教育課程 知的障害者 肢体不自由者

### 1. はじめに

我が国の特別支援学校を始めとする初等中等教育の諸学校は、10年に一度改訂される学習指導要領に基づき、学校現場が趣旨を汲んで地域等の特色を生かした教育課程の編成に取り組むことになる。平成29年4月28日に官報告示された特別支援学校学習指導要領の基本的な考え方は、「社会に開かれた教育課程の実現、育成を目指す資質・能力、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導改善、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立など、初等中等教育全体の改善・充実の方向性を重視。」と示され、「障害のある子供たちの学びの場の柔軟な選択を踏まえ、幼稚園、小・中・高等学校の教育課程との連続性を重視。」することや、「障害の重度・重複化、多様化への対応と卒業後の自立と社会参加に向けた充実。」を目指すことについても示されているところである。

特別支援学校の教育課程編成及び実施に関する先行研究は、（独）国立特別支援教育総合研究所（2007,2010,2012a,2012b,2016）において、計画的に実施されているところであり、これらは学習指導要領の実施状況の調査と次期改訂に向けた資料としての意味合いが強い。また、一木（2012）は重複障害教育を対象に、1947（昭和22）年からの学習指導要領の変遷と教育課程等のカリキュラム研究の変遷を整理している。川住（2015）は、重度・重複障害のある児童生徒への訪問教育による指導の経過と課題を整理している。さらに、熊本大学教育学部・四附属学校園（2015）は、幼・小・中連携、教科間連携を視野に入れ、特別支援学校の教育課程については、個に応じたアセスメントを行ったう

えで、「コミュニケーション能力は『基礎的・基本的な知識・技能』を身に付ける基盤となり、身につけた知識・技能を活用することで、課題を解決するために必要な『思考力・判断力・表現力』を育成する。その結果として『主体的に学習に取り組む態度』につながると考える」と述べており、今回の学習指導要領の改訂につながる提言をしている。

## 2. 研究の目的

本研究は、新学習指導要領の実施に向けた特別支援学校における教育課程の編成状況や学校経営方針の現状について、主に知的障害者及び肢体不自由者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校を対象に悉皆調査し、平成29年4月に公示された特別支援学校学習指導要領の改訂のポイントを参考に、教育課程の実態等をテキストマイニングの手法により整理する。

## 3. 研究の方法

### 3.1. 対象

全国の知的障害者及び肢体不自由者を教育する特別支援学校のうち、都道府県等教育委員会の特別支援学校一覧等に掲載されている880校を対象とした。

### 3.2. 調査時期

2017年4月24日～6月1日

### 3.3. 分析方法

都道府県教育委員会の特別支援学校一覧等に掲載されている880校のWebサイトで公開されている教育課程や学校経営方針のテキスト情報を収集した。収集した情報は、テキストファイルの形式で保存し、計量テキスト分析システム KHCoder (樋口 2004, 2014) を用いて分析を行った。テキストマイニングの手法を利用した先行研究としては、高橋 (2012) による病気療養児の作文の分析の例がある。病気療養児の生の思いや本音を含んだ作文の質的なデータを数値データと同様に扱うことができるため、分析者の恣意的な解釈を回避できる利点があるとしており、病気療養児が「年齢や性別、疾患との関連で入院中の病気療養児の心理面の実態が示された。」としている。さらに、樋口によると計量的分析手法をテキスト型データに適用することの利点として、「信頼性・客観性の向上とデータ探索の2点を挙げることができる。」と述べており、質的研究と量的研究の両面から大量のテキストデータを分析することが挙げられる。

各学校の教育課程や学校経営方針を保存したテキストデータを、知的障害者・肢体不自由者などを教育対象とする学校 (726校) (以下「知的を含む学校」という。) と知的障害者・病弱者を除く肢体不自由者・視覚障害者・聴覚障害者 (ただし、視覚障害者・聴覚障害者をそれぞれ単独で教育する特別支援学校は除く) を教育対象とする学校 (154校) (以下「肢体を含む学校」という。) に分け、テキストファイルとした。全対象校は880校であるが、障害種別の併置など設置形態がさまざまであるため、本稿では知的を含む学校と肢体を含む学校というように大きく分類した上で、知肢を合わせた全体のテキストデータの分析を行った。

学校で公開されている教育課程等の分析に際しては、テキストデータの頻出語を対象として段落ごとに語句の出現パターンで集計する階層的クラスター分析によるものと、文部科学省（2017）による特別支援学校学習指導要領等の改訂のポイントをもとにしたコード化による階層的クラスター分析によるものとした。テキストデータのコーディングルールに基づいたクラスター分析では、新学習指導要領の公示が年度明けであったことから、未対応の学校で様々な用語が使われていることが予想されるため、執筆者で協議して表1に示すようなコーディングルールを設定し、例えば「社会」「地域」「教育課程」「共有」が出てくると、“社会に開かれた教育課程”というコードを与えた上で階層的クラスター分析した。

表1 コーディングルールの定義

* 社会に開かれた教育課程 社会 or 地域 or 教育課程 or 共有
* 資質・能力 基礎的 or 基本的 or 知識 or 技能 or 思考力 or 判断力 or 表現力 or 言語活動 or 学習習慣 or 道徳 or 学びに向かう力 or 人間性 or 見方 or 考え方 or 選択 or 生きる力 or 感性
* 主体的・対話的 深い学び or アクティブ or 主体 or 対話 or ラーニング or 長期的 or 単元 or 計画
* カリキュラム・マネジメント 卒業後 or 計画的 or 組織的 or 教育活動 or 質の向上 or 教育課程 or 教科等 or 横断的 or 評価 or 改善 or 学校の特色 or 編成 or 学校運営 or PDCA or 評価 or 個別の教育支援計画 or 個別の指導計画
* 学びの場 幼稚園 or 小学校 or 中学校 or 高等学校 or 教育課程 or 柔軟な選択 or 教育支援計画 or 指導計画
* 障害の特性等 視覚 or 聴覚 or 肢体不自由 or 病弱 or 状態 or 特性 or 合理的配慮 or アセスメント or WISC or 太田ステージ or K式 or 発達 or 検査 or 心理 or 段階 or ニーズ or 知的発達 or 障害 or PT or OT or ST or 専門家 or 外部専門 or AAC or AT
* 自立と社会参加 キャリア教育 or 職業教育 or 作業 or 実習 or 産業 or キャリア or 現場 or 自己理解 or 進路 or 地域
* 生涯学習 スポーツ or 運動 or 部活 or 文化 or 芸術 or 幸福 or 豊かな生活 or QOL
* 学びの連続性 小学部 or 中学部 or 高等部 or 幼稚部 or 知的障害 or 各教科等 or 段階 or 目標 or 外国語活動
* 各教科の内容を充実 国語 or 数学 or 算数 or 社会 or 職業 or 家庭 or 生活 or ICT or AAC or AT
* 交流及び共同学習 交流 or 共同 or 心のバリアフリー or 共通理解 or 協同 or 協働

#### 4. 倫理的配慮

本研究は、各学校の Web で公開されている教育課程等をテキストマイニングの手法により研究するものであり、個人情報を含め倫理的配慮が必要な情報は取り扱わない。

## 5. 結果

### 5.1. 教育課程の Web 公開状況について

都道府県等教育委員会で知的障害者及び肢体不自由者等を教育する特別支援学校としてリストアップされている学校 880 校のうち、調査を実施した期間に各学校 Web に教育課程や学校経営方針が掲載されている学校は、634 校（72%）であった（表 2）。教育課程等が未掲載等で調査対象外とした学校のうち、教育課程等が画像ファイルのみで掲載され、代替テキストの掲載がなされていない学校が 37 校であり、教育課程等が未掲載の学校は 119 校であった。また、昨年度以前のものがそのまま掲載されている学校も 115 校あった。特に、印刷資料をスキャンした画像のみでの公開は、画面上の表示では情報を理解しづらい人が印刷したり、代替テキストで読み上げたりすることが困難な情報公開の形態となっている。

表 2 調査対象学校数と教育課程を Web で公開している学校数

障害種別	知	知肢	知肢病	知病	知視	知聴	知視聴	計	
学校数	517	138	32	17	1	13	8	726 (a)	a+c 880
公開校数	394	107	7	6	1	7	1	523 (b)	b+d 634
障害種別	肢	肢病	肢視	肢視聴	肢聴				公開率
学校数	120	33	1	0	0			154 (c)	72%
公開校数	102	9	0	0	0			111 (d)	

※知は知的障害を、肢は肢体不自由を、病は病弱を、視は視覚障害を、聴は聴覚障害を示し、一例として知肢は知的障害と肢体不自由の併置を示す。

### 5.2. 教育課程等の頻出語の階層的クラスター分析について

634 校の特別支援学校の教育課程等のテキストファイルを、計量テキスト分析システム KHCoder により頻出語をクラスター分析した結果を表 3 に示す。対象となるテキストファイルを分析した結果、総抽出語数は 1,487,758 語（使用は 730,568 語）であった。KHCoder が「同じ段落内に一緒に出現している組み合わせを『出現パターンが似ている』と見なす」（樋口）ことから、段落単位で集計するよう指定し、単純集計した段落数は 22,069 件であった。このように大量のテキストデータであるため、KHCoder により多変量解析を行い、1515 回以上データに出現していた頻出語を階層的クラスター分析の対象とした。クラスター化法には、広く一般に用いられており、アルゴリズムないし挙動がよく知られている Ward 法を採用した。

クラスター 1 は、「基本」「身」「能力」「態度」「必要」のように、学校教育全般で必要な用語で構成され、基本的生活習慣を身につけるために必要な能力や態度といった用語が集まっている。

クラスター 2 は、「活動」「学習」「力」「自立」「社会」「生活」「自分」「できる」「目標」「育成」で構成され、学校での学習活動で育成する目標や力といった用語が集まっている。

クラスター 3 は学校種の「高等」「小学」「中学」の用語で構成されている。クラスター 4 は、「子ども」「本校」「特別支援学校」と「障害」「ある」「理解」といった用語や「豊か」「心」「環境」「安全」「健康」といった特別支援学校の子供の教育に関する用語が集まっている。ここでは紙面の都合でクラスター分析結果のデンドログラム（樹状図）は示さないが、クラスター 3 とクラスター 4 との間で接続がみられることから、小・中・高等部それぞれにおいてクラスター 4 に示す用語とは関連がみられる



表3 教育課程等の頻出語の階層的クラスター分析結果

1	基本	1899	4	子ども	2354	6	生徒	11570	8	交流	2130
	身	1680		なる	2063		児童	7707		学部	1941
	能力	1553		本校	2719		教育	11182		学級	1598
	態度	1724		特別支援学校	1799		学校	12679		進路	2450
	必要	2615		理解	2332		する	42041		情報	2038
2	活動	10271	5	障害	2764	7	支援	5883	※数字はいずれも出現回数	課題	1796
	学習	8808		ある	3149		指導	10572		評価	1836
	力	4852		豊か	2051		充実	5783		職業	1595
	自立	4266		心	1606		教職員	1980		作業	1866
	社会	4414		環境	1796		専門	2178		内容	2697
	生活	10020		安全	2608		向上	2604		教科	1904
	自分	2591		健康	2587		実践	1945		実態	1516
	できる	5224		機関	1871		改善	1948		教育課程	1949
	目標	5038		関係	2714		授業	4089		※数字はいずれも出現回数	
	育成	2314		保護	3104		研究	1816			
3	高等	3447	5	地域	6558	7	推進	4078			
	小学	1922		連携	4051		活用	2797			
	中学	1910					計画	2678			
						7	実施	4055			
							研修	2448			

と考えられる。

クラスター5は、「機関」「関係」「保護」「地域」「連携」という用語で構成され、「保護」者や「地域」を含む「関係」「機関」等との「連携」に関する用語が集まっている。

クラスター6は、「生徒」「児童」「教育」「学校」「する」「支援」「指導」「充実」といった用語で構成され、学校教育における児童生徒への指導支援の充実といった関連用語が集まっている。

クラスター7は、「教職員」「専門」「向上」「実践」「改善」「授業」「研究」「推進」「活用」「計画」「実施」「研修」といった用語で構成され、「教職員」の「専門」性の「向上」や「授業」「改善」、「研究」の「計画」的な「実施」・「推進」といった教職員の専門性向上に関する用語が集まっている。

クラスター8は、「交流」「学部」「学級」「進路」「情報」「課題」「評価」「職業」「作業」「内容」「教科」「実態」「教育課程」といった用語で構成されている。「学部」や「学級」の「交流」、「進路」「情報」と「課題」と「評価」、「職業」や「作業」と「教科」「内容」、「実態」と「教育課程」といった交流及び共同学習を含めた自立や社会参加に向けた教科や教育課程に関する用語が集まっている。なお、各クラスター名については、構成されている用語を参考に筆者が付したものを太字下線で示した。

## 6. 学習指導要領改訂のポイントからの階層的クラスター分析の結果

次に学習指導要領改訂のポイントから、全国の特別支援学校の教育課程等を整理するために、先に示したコーディングルール（表1）に従い、KHCoderの機能によりテキストデータを分類・コード付与した上で、階層的クラスター分析を行った。用語間の共起関係には、Jaccardの類似性測度を使用

した。Jaccard の類似性測度は、0 から 1 までの値をとり、関連が強いほど 1 に近づく。また、この係数は、どちらの条件にもあてはまらない 0-0 対の影響を無視する特徴がある。

コーディングルールに従った階層的クラスター分析の結果を表 4 に示す。Jaccard の類似性測度の値が大きい順に 15 語を示した。なお、16 語以降の語については、分析結果より 6.1 以降に補足し記述した。

表 4 学習指導要領改訂のポイントによるコーディングクラスター分析結果

* 社会に開かれた教育課程			Jaccard	* 自立と社会参加			Jaccard
1	学校		0.3155	1	学校		0.3013
2	生徒		0.3142	2	生徒		0.2933
3	教育		0.3115	3	教育		0.2815
4	活動		0.2919	4	連携		0.2718
5	生活		0.2902	5	指導		0.2676
6	指導		0.2652	6	活動		0.2672
7	学習		0.2516	7	充実		0.2612
8	連携		0.2508	8	支援		0.2586
9	支援		0.2401	9	学習		0.2585
10	児童		0.2396	10	社会		0.2563
11	充実		0.2376	11	生活		0.2368
12	自立		0.232	12	保護		0.2292
13	図る		0.2294	13	行う		0.2243
14	行う		0.2224	14	関係		0.2218
15	関係		0.2121	15	児童		0.2211
* 資質・能力			Jaccard	* 生涯学習			Jaccard
1	態度		0.2881	1	体育		0.1955
2	必要		0.2809	2	体力		0.1767
3	身		0.2344	3	健康		0.168
4	生活		0.2229	4	向上		0.1502
5	自立		0.2193	5	活動		0.1408
6	社会		0.204	6	生活		0.1396
7	習慣		0.2035	7	学習		0.1387
8	学習		0.1972	8	障害		0.1383
9	基本		0.1917	9	参加		0.1321
10	基礎		0.1886	10	交流		0.1319
11	育てる		0.1876	11	行事		0.1318
12	教科		0.1808	12	基本		0.1306
13	養う		0.1775	13	理解		0.1303
14	職業		0.175	14	能力		0.1288
15	健康		0.1749	15	豊か		0.1287
* 主体的・対話的			Jaccard	* 学びの連続性			Jaccard
1	指導		0.2844	1	教育		0.322
2	生活		0.2758	2	生徒		0.2754
3	学習		0.2701	3	児童		0.2572
4	活動		0.2648	4	指導		0.2566
5	生徒		0.2393	5	応じる		0.2513
6	自立		0.2362	6	生活		0.2417
7	応じる		0.2204	7	活動		0.2276
8	目標		0.2197	8	学校		0.2258
9	教育		0.2126	9	学習		0.2257
10	行う		0.2085	10	自立		0.2254
11	児童		0.2069	11	社会		0.2137

12	社会	0.2037
13	学校	0.2008
14	図る	0.199
15	充実	0.1976
*カリキュラム・マネジメント		Jaccard
1	指導	0.2568
2	学習	0.2112
3	生徒	0.2101
4	計画	0.2098
5	授業	0.2084
6	応じる	0.2039
7	教育	0.2021
8	目標	0.2015
9	改善	0.1958
10	充実	0.1953
11	保護	0.1939
12	連携	0.1928
13	活動	0.1927
14	児童	0.1907
15	自立	0.1904
*学びの場		Jaccard
1	編成	0.2451
2	高等	0.2099
3	学習	0.1819
4	指導	0.1804
5	小学	0.1795
6	中学	0.1785
7	応じる	0.1775
8	特別支援学校	0.176
9	自立	0.1739
10	障害	0.1714
11	目標	0.1676
12	交流	0.1668
13	授業	0.1657
14	教育	0.163
15	連携	0.1621
*障害の特性等		Jaccard
1	応じる	0.353
2	生徒	0.3294
3	教育	0.3243
4	指導	0.3054
5	児童	0.3028
6	生活	0.2535
7	活動	0.2507
8	自立	0.2375
9	図る	0.2367
10	行う	0.2351
11	学習	0.2344
12	学校	0.2315
13	充実	0.2289
14	支援	0.2288
15	連携	0.2167

12	重点	0.2132
13	障害	0.2112
14	充実	0.2039
15	力	0.2029
*各教科の内容を充実		Jaccard
1	生徒	0.3227
2	学習	0.3214
3	活動	0.3165
4	指導	0.3097
5	自立	0.2796
6	教育	0.2705
7	学校	0.2633
8	力	0.2612
9	図る	0.2439
10	児童	0.2403
11	地域	0.2373
12	必要	0.2238
13	行う	0.2227
14	目標	0.2126
15	充実	0.206
*交流及び共同学習		Jaccard
1	地域	0.1978
2	居住	0.1734
3	学習	0.1629
4	交流及び共同学習	0.162
5	推進	0.1593
6	行事	0.1566
7	理解	0.1542
8	連携	0.1532
9	活動	0.1509
10	積極	0.1504
11	高等	0.1495
12	実施	0.1468
13	授業	0.1436
14	参加	0.1427
15	体験	0.1423

※数値は Jaccard の類似性測度の値を示す。



## 6.1. 社会に開かれた教育課程

“社会に開かれた教育課程”のクラスターは、表4に示した「指導」「学習」「連携」「自立」「図る」「行う」「関係」の他、「保護」「機関」「障害」「理解」「授業」「育成」「計画」「職業」などの用語で構成されている。文部科学省（2007）によると、特別支援教育の理念や考え方として「障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。」と示されている。特別支援学校の教育課程は、その理念による学習指導要領を基にして各校で編成されていることから、自立と社会参加に向けた学習などにつながる様々な取り組みが用語として頻出している。また、知的障害・肢体不自由の概念や特別支援教育の歴史をふまえること、教育課程の編成と配慮事項、現在の特別支援教育の現状として児童生徒の障害の重度・重複化、さらに多様化といった状況については、「連携」「自立」「図る」「関係」「保護」「機関」「障害」「理解」「計画」「交流」「環境」「職業」といった用語の構成で述べられている。

## 6.2. 資質・能力

“資質・能力”のクラスターは、“学びに向かう力 人間性等”に関して「人間」「学ぶ」の用語で、“知識・技能”に関して「教科」「職業」「理解」の用語で、“思考力・判断力・表現力”に関して「生活」「自立」「社会」「学習」「基礎」の用語で構成されている。また、育成を目指す資質・能力に「必要」な「態度」「学習」「習慣」を「身」につけることも値が大きく示されている。これらは、重度・重複化や訪問教育などへの対応を含めた学習指導要領に基づいた「教育課程」編成にあたり、知的障害や肢体不自由などの「障害」に応じることや「職業」「生活」に向けた学習に「意欲」的「主体」的に「活動」し、「生きる」「力」を育て、「豊か」な「自立」と「社会」参加につなげることなどが示されている。

## 6.3. 主体的・対話的

“主体的・対話的”のクラスターは、「生活」「学習」「活動」「自立」「目標」「社会」「図る」「充実」「授業」「内容」「連携」「地域」「推進」「進路」「実態」「態度」「豊か」「評価」「意欲」「体験」「交流」などの用語で構成されている。知的障害や肢体不自由のある児童生徒を対象にした授業を実施する上での「生活」や「学習」上の困難さを改善又は克服するために、特に知的障害者における教育課程編成の特例として学習指導要領に示されている知的障害の状態や経験等に応じたり、在学期間を見通して計画的に指導したりするなど、児童生徒が主体的・対話的に学習することは必須であることから、それに必要な用語で構成されている。

## 6.4. カリキュラム・マネジメント

“カリキュラム・マネジメント”のクラスターは、「指導」「学習」「生徒」「計画」「授業」「応じる」「教育」「目標」「改善」「充実」「保護」「連携」「活動」「児童」「自立」といった値が大きく示された用語のほか、「内容」「地域」「専門」「実践」「進路」「キャリア教育」「自己」「研究」「ニーズ」「研修」「経営」「発達」「教職員」などの用語で構成されている。分析対象は、知的や肢体を含む学校の教育課程であることから、「自立」活動に関することや「保護」者や「地域」「専門」「関係」「機関」との「連携」を実施するための個別の教育支援計画・個別の指導計画の活用や特別支援学校のセンター的機能の発揮と特別支援教育コーディネーターといった用語で構成されている。

## 6.5. 学びの場

“学びの場”のクラスターは、特別支援教育の理念による柔軟な学びの場の選択を踏まえ、「編成」「高等」「学習」「指導」「小学」「中学」「応じる」「特別支援学校」「自立」「障害」「目標」「交流」「授業」「教育」「連携」の他、「充実」「地域」「社会」「キャリア教育」「教科」「進路」「ニーズ」「知的障害」「学級」「保護」「特性」「理解」「発達」「保護」「卒業」「安全」「一環」「交流及び共同学習」といった用語で構成されている。幼稚園・小・中・高等学校の教育課程との連続性を重視する視点からは、訪問教育対象の児童生徒も含めて「発達」や「特性」の「理解」と「ニーズ」に応じた、「学習」「授業」「指導」を行い、特別支援教育コーディネーターの関与による個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用した「キャリア教育」「教科」「指導」「進路」「交流及び共同学習」を実施するといった用語で構成されている。

## 6.6. 障害の特性等

“障害の特性等”のクラスターは、「活動」「自立」「目標」「地域」「関係」「推進」「保護」「理解」「健康」「授業」「改善」「向上」「専門」「内容」「計画」「豊か」「機関」「環境」「安全」「教育課程」「知的障害」「把握」「研修」「情報」「高める」といった用語で構成されている。特に「知的障害」の特別支援学校において、太田のステージや WISC- IV、新版 K 式発達検査などの「心」理検査や発達検査、行動観察などのアセスメントの実施及びその「研修」による「専門」性「向上」が目指されること、また、肢体を含む学校においては、医療などの「専門」「機関」や「保護」者との連携による医療的ケアの必要な児童生徒の障害や訪問教育の実施に必要な障害や発達の実態「把握」と科学的な「理解」を進めること、さらに、全障害種において「自立」「活動」の六区分を参考に、拡大・代替コミュニケーション（AAC）の活用も含めた個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用による「計画」的な「授業」による「指導」・「支援」の「改善」が必要といった用語で構成されている。

## 6.7. 自立と社会参加

“自立と社会参加”のクラスターは、「連携」「充実」「支援」「社会」「保護」「生活」「関係」の他、「高等」「機関」「自立」「目標」「実施」「理解」「目指す」「計画」「専門」「活用」「豊か」「環境」「研修」「職業」「健康」「家庭」「教育課程」「ニーズ」といった用語で構成されている。卒業後の視点からのカリキュラム・マネジメントは、「連携」「支援」「社会」「保護」「生活」「関係」「専門」「機関」「教育課程」といった用語から、「計画」的組織的な取り組みには、特別支援学校のセンター的機能の発揮による一貫した「支援」の「充実」や、そのための個別の教育「支援」「計画」や個別の指導「計画」の「活用」、さらには、拡大・代替コミュニケーションの活用も含めた「自立」活動の指導、「生徒」自らが「健康」で「豊か」な「職業」「生活」を「目指す」ことなどの用語で構成されている。

## 6.8. 生涯学習

“生涯学習”のクラスターは、「体育」「体力」「健康」「向上」「活動」「生活」「学習」「障害」「参加」「交流」「行事」「基本」「理解」「能力」「豊か」の他、「音楽」「基礎」「習慣」「態度」「育成」「楽しい」「連携」「地域」「学ぶ」「養う」といった用語で構成されている。知的障害者を教育する特別支援学校における教育課程編成の特例として学習指導要領に示されている、知的障害の状態や経験等に応じたり、在学期間を見通して計画的に指導したりすることや、肢体を含む学校では、東京オリンピック・

パラリンピック「参加」に向けた、関連イベントのための「活動」や具体的なボッチャなど競技名を挙げた「体育」などの「学習」「活動」などについて述べられている。特別支援学校のセンター的機能の発揮による個別的教育支援計画や個別の指導計画の活用、さらには、拡大・代替コミュニケーションの活用も含めた「自立」活動の指導により、「生徒」自らが「体育」や「音楽」などを「学び」、卒業後も生涯にわたり「健康」で「豊か」な「楽しい」「生活」のための「習慣」「態度」を「学ぶ」「養う」などの用語で構成されている。

#### 6.9. 学びの連続性

“学びの連続性”のクラスターは、「教育」「応じる」「生活」「自立」「重点」「障害」「充実」の他、「高等」「地域」「小学」「中学」などの用語で構成されている。特別支援教育の理念により一人一人の「障害」や特性に「応じ」た「教育」を「小学」部「中学」部「高等」部それぞれに段階を設定することや知的障害者における教育課程編成の特例、重度・重複化の進む肢体不自由者の教育課程編成についても、各段階に応じた目標を設定し、教育課程を編成することなどの用語で構成されている。

#### 6.10. 各教科の内容を充実

“各教科の内容を充実”のクラスターは、「学習」「活動」「指導」「自立」「教育」「学校」「力」「地域」「目標」の他、「充実」「健康」「関係」「連携」「障害」「支援」「教育課程」「情報」の用語で構成されている。知的障害者である児童生徒のための各教科の内容を充実させるために、日常生活と密着した題材で、必然性のある「学習」を進めるために、「地域」「関係」「連携」といった用語が多く見られる。障害の重度・重複化により医療的ケアの必要な児童生徒や訪問教育の対象となる児童生徒などを対象とした肢体を含む学校においても、同様の用語で構成されている。また拡大・代替コミュニケーションの活用も含めた「情報」手段の活用などには授業研究・改善を「充実」させることが示され、具体例としてタブレットPC等を活用したテレビ電話による教室と家庭等の遠隔地間の共同学習・授業の取り組みが紹介されている。

#### 6.11. 交流及び共同学習

“交流及び共同学習”のクラスターは、「地域」「居住」「学習」「交流及び共同学習」「推進」「行事」「理解」「連携」「活動」「積極」「高等」「実施」「授業」「参加」「体験」の他、「中学」「保護」「機関」「学校」「小学」「社会」「充実」「環境」「近隣」「取り組む」「協力」「研修」「センター」「心」「学ぶ」「教育課程」「校外」といった用語で構成されている。インクルーシブ教育システムの構築に向け、特別支援教育の理念や学習指導要領に基づき、「交流及び共同学習」が「保護」者の「理解」と「協力」のもと、「近隣」の「小学」「中学」「高等」「学校」との「連携」により「取り組む」ことが、知的及び肢体を含む学校共に教育課程に明記されている。これらの実施にあたっては、特別支援学校のセンター的機能の発揮や、特別支援教育コーディネーターによる連絡調整、障害「理解」のための「研修」も実施されている他、医療的ケアの必要な児童生徒や訪問教育の対象となる児童生徒の取り組みについても、「居住」「地域」の学校との取り組みが紹介されている。

## 7. 考察

本研究は、Web で教育課程等がテキストデータとして公開されている特別支援学校 634 校の教育課程等をテキストマイニングの手法により、その頻出語の階層的クラスター分析と学習指導要領改訂のポイントからの階層的クラスター分析を実施した。

頻出語の階層的クラスター分析では、構成している用語から 8 のクラスターに分類され、“必要な能力や態度”“育成する目標や力”“学校種”“特別支援学校の子供の教育”“関係機関等との連携”“指導支援の充実”“教職員の専門性の向上”“自立や社会参加に向けた教科や教育課程”といったクラスター名を付与した。大きく目標や教育内容、教育課程、連携、教職員の専門性向上に関することに分類され、特別支援教育の充実に関することは、重度・重複化、多様化の進む知的障害や肢体不自由などの様々な用語により述べられている。

学習指導要領改訂のポイントからの階層的クラスター分析では、知的障害と肢体不自由で構成している用語で違いがみられたのは、障害の特性と生涯学習であった。障害の特性については、知的を含む学校で心理検査等の活用が重要視されているのに対して、肢体を含む学校では、専門機関や保護者との連携が重視され、医療的ケアや訪問教育の実施に必要な障害や実態の把握と理解が進められていた。一方で、知的障害・肢体不自由共に拡大・代替コミュニケーションの活用を含めた自立活動の取り組みや個別の教育支援計画等の活用による個に応じた指導支援の改善が必要と述べられていた。また、生涯学習においては、肢体を含む学校で東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みが明記されていた。さらに、学びの連続性、各教科の内容を充実、交流及び共同学習については、知的障害・肢体不自由共に知的障害者における教育課程編成の特例や重複障害者等に対する教育課程の取扱いを踏まえて、これらが重視されている。これは、複数の障害種を対象とする特別支援学校のうち、高等部に重複障害学級を設置している学校の割合が 96.6%（文部科学省 2017）であることから、特別支援学校では肢体不自由単一で小・中・高等学校に準ずる教育を受けているものは少なく、知的障害と肢体不自由など複数の種類の障害を併せ有する児童生徒として、重度・重複化に対応した教育課程により学習指導や支援が実施されていることがうかがえる。

## 8. おわりに

本研究は、学習指導要領改訂への対応状況を含めた特別支援学校の教育課程等の実態を、テキストマイニングの手法により整理するために、テキストデータの頻出語の階層的クラスター分析と、学習指導要領改訂のポイントをもとにした階層的クラスター分析を実施した。両者を比較すると、表 3 に示した頻出語 68 語と表 4 に示した 165 語の比較では、クラスターの分け方は違うが同様の用語で構成されていた。表 3 と 4 で重複していない語が 5 語以上出現している、つまり、より多くの用語で構成されているクラスターは、“資質・能力”“生涯学習”“交流及び共同学習”であり、今回新たに強調されているポイントである。また、分析対象としたテキストデータの頻出語の階層的クラスター分析では、学習指導要領改訂のポイントに関連する用語はみられるが、示されたままの用語の出現はほとんど見られなかったことから、学習指導要領で示された趣旨を汲んだ今後の各校の教育課程の編成を見守りたい。

さらに、本研究では、全国の特別支援学校の Web を悉皆調査する中で、教育課程等が代替テキスト



情報を含まない画像ファイルとして公開され、一部の人は情報を得ることができない状況だったり、公的機関として公開が必要な情報が公開されていなかったり、過年度のまま公開されていたりといった状況に接した。多忙な教育現場ではあろうが、障害者差別解消法などのコンプライアンスの観点からも、高齢者や障害者を含む誰もが利用しやすいように、総務省（2016）がガイドラインを示していることを参考に、公的機関としての特別支援学校の情報公開を改善する必要性を強く感じた。

#### 参考文献

- ・（独）国立特別支援教育総合研究所（2007）「プロジェクト研究（平成18年度）特別支援教育における教育課程の編成・実施の推進に向けた実際研究 特別支援教育の充実に向けた教育課程編成」 研究成果報告書。
- ・（独）国立特別支援教育総合研究所（2010）「平成20年度～21年度 重点推進研究 特別支援教育における教育課程のあり方に関する研究—複数の障害種への対応及び幼・小学部から高等部までの一貫した教育課程の工夫」 研究成果報告書。
- ・（独）国立特別支援教育総合研究所（2012a）「平成22年度～23年度 専門研究A（重点推進研究）C-85 特別支援学校における新学習指導要領に基づいた教育課程編成の在り方に関する実際研究」 研究成果報告書。
- ・（独）国立特別支援教育総合研究所（2012b）「平成22年度～23年度 専門研究B（重点推進研究）C-87 特別支援学校（知的障害）高等部における軽度知的障害のある生徒に対する教育課程に関する研究—必要性の高い指導内容の検討—」 研究成果報告書。
- ・（独）国立特別支援教育総合研究所（2016）「平成26年度～27年度 専門研究A B-303 今後の特別支援教育の進展に資する特別支援学校及び特別支援学級における教育課程に関する実際研究」 研究成果報告書。
- ・一木薫（2012）「重複障害教育におけるカリキュラム研究の到達点と課題」 特殊教育学研究, 50（1）, 75-85.
- ・川住隆一（2015）「訪問教育に関する研究の動向と課題」 特殊教育学研究, 53（2）, 117-126.
- ・熊本大学教育学部・四附属学校園（2015）「論理的思考力・表現力育成のためのカリキュラム開発—教科間連携、幼・小・中連携を視野に入れて—」 溪水社。
- ・樋口耕一（2004）「テキスト型データの計量的分析—2つのアプローチの峻別と統合—」 理論と方法（数理社会学会）19（1）, 101-115.
- ・樋口耕一（2014）「社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—」 ナカニシヤ出版。
- ・高橋剛実（2012）「テキストマイニングによる入院中の病児療養児の作文の分析」 小児保健研究, 71（2）, 250-258.
- ・文部科学省（2017）「特別支援学校学習指導要領等の改訂のポイント」, <http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=185000894&Mode=0>（2017.8 確認）。
- ・文部科学省（2007）「特別支援教育の推進について（通知）」, [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/07050101.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/07050101.htm)（2017.8 確認）。
- ・文部科学省（2017）「特別支援教育資料（平成28年度）」, [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/material/1386910.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1386910.htm)（2017.8 確認）。
- ・総務省（2016）「みんなの公共サイト運用ガイドライン（2016年版）」, [http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/b\\_free/guideline.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/b_free/guideline.html)（2017.8 確認）。